日本経済新聞（夕刊）
2014年（平成26年）8月5日（火曜日）

認知症・徘徊 まちぐるみで支える

福岡・大牟田 10年の知恵

認知症やその予備軍の高齢者が増えている。住み慣れた地域で暮らし続けるには、地域のサポートが大切だ。先駆的な取り組みで「安心して徘徊（はいかい）できる町」を目指す福岡県大牟田市を訪れた。

大牟田市は人口約12万人。炭鉱閉山で人口が減り高齢化率は32%と、全国平均（25%）を大きく上回る。市と介護事業者らが連携し、2002年度から本格的に認知症の高齢者とその家族を支える仕組みづくりを進めてきた。

人ごとではない

本人や家族の支援にあたる「認知症コーディネーター」の養成、専門医やコーディネーターで構成し困難事例の検討などにあたる「地域認知症サポートチーム」の結成など取り組みは多彩。最大の特徴は、支える活動に多くの住民が加わり、地域にしっかり根付いていることだ。

同市では年1回、家族から警察に行方不明の届けが出たという想定で、消防や交通機関、福祉関係者や市民などにファクスや電子メールで連絡し、地域で一斉に捜索する訓練をしている。この原点となったのが、駛馬（はやめ）南小学校区の住民団体「はやめ南人情ネットワーク」の活動だ。

結成は10年前の04年。同年から認知症のお年寄りを保護する徘徊模擬訓練を始めた。「認知症は人ごとではない、家族だけでは支えきれない。そんな意識が地域で高まり、共有できた」。

住民参加、市全域で訓練

年1回、市内全域で訓練をする（大牟田市）

訓練は07年から市の主催になり校区も拡大。今では年1回、市内全域で行われる。13年は徘徊役が約70人。2000人を超える市民が参加した。「地域発で活動が広がってきたのが、大牟田市の強み」と市の担当者。

情報伝達がうまくいくか、徘徊役の人に上手に声をかけられるか。21の校区がそれぞれ訓練に工夫を凝らし、終了後は反省会もする。訓練の前には、認知症の人や家族を見守る市民ボランティア「認知症サポーター」の養成講座も開く。今年も9月に実施予定で、各校区で準備がすでに始まっている。

若い世代に認知症への理解を促す工夫もしている。模擬訓練への参加を呼びかけて、13年は小学生から大学生までの参加があった。

小中学校での絵本教室も特徴だ。これも10年前に始めた。祖父母が認知症になった子どもが主人公の絵本を教材に、病気についての正しい理解や寄り添う気持ちの持ち方などについて分かりやすく教える。13年度は17校で実施した。

子どもも理解を

吉野地区地域包括支援センターの認知症コーディネーター、松嶋明子さん（61）は、1学期に小学校で絵本教室をした。「子どもは純粋で理解が早い。こんな風に接したらいいんじゃないか、などと次々にアイデアが出てくる」。子どもたちの姿を見ることで大人の理解も広がると期待する。

認知症対策の先進地とされる大牟田市。それでも関わる人たちは「まだまだやるべきことは多い」と口をそろえる。認知症は、高齢になれば誰がなっても不思議ではない病気だ。認知症を身近に、普通の病気として受け止められる環境づくりは、いざというときの早期受診への後押しにもなるだろう。

代表世話人の汐待律子さん（74）は発足当時をこう振り返る。

訓練を重ねるなかで、それまで高齢者の認知症を伏せていた家が近所に見守りをお願いするようになったり、住民が声をかけるようになったりしたという。ネットワークの合言葉は「1人の100歩よりも、100人の1歩」だ。「住民一人一人が無理のない範囲で、地域のためにできることをやることが大切」

ちょっとしたことでも目を配り、助け合う環境が整えば、誰にとっても安心して暮らせる町になる。看護師の横田典子さん（53）は、休みの日なのに一人でデイサービスに向かおうとしていた高齢者に声をかけ、自宅に送ったことがある。「子どもたちは、地域に見守ってもらっている。自分もできることをしたい」

25年、470万人に

厚生労働省の推計では、介護が必要な認知症の高齢者は305万人（2012年）。25年には470万人に増える見通しだ。介護保険制度を利用していない人なども含めるとすでに400万人超という推計もある。

住み慣れた地域で暮らせるよう支援しようと、厚労省は13年度から「認知症施策推進5カ年計画（オレンジプラン）」を始めた。認知症の早期診断・治療体制を整備することや、「認知症サポーター」の育成などを柱に据える。

警察庁によると、認知症が原因で行方不明になったと届け出があった人は12年が9607人、13年は7%増の1万322人だった。地域で支える仕組み作りが急務だ。

（編集委員　辻本浩子）

高齢者への上手な声のかけ方

- ゆっくり近づいて、相手の視界に入ってから話しかける
- 近づきすぎず、しかし目線を合わせ、ゆっくりと穏やかな口調で
- 「こんにちは」「お暑いですね」など、ごく普通にあいさつから
- 「私はすぐそこの○○ですが、どちらからいらっしゃいました？」など優しくたずねる
- 分かりやすく簡潔な言葉で、1つずつ話しかける。矢継ぎ早に質問せず、答えをゆっくり待つ
- 「少し休んで行かれませんか」などと呼びかけ、座るよう促す
- うまくいかない場合は、いったん離れて間をおく。または、近所の人に連絡し助けを求める

これはNG

- 急に後ろから話しかける、大声で怒鳴るように呼びかける
- 厳しい顔、困った顔
- 数人で取り囲む
- 急に腕をつかむ、体に触れる

（注）大牟田市の資料をもとに作成